

第6回 京都駅南口駅前広場エリアマネジメント会議 議事要旨

日 時：平成27年3月20日（金） 午前10時00分～午前11時30分

場 所：京都市消防局本部7階作戦室

出席者：別紙のとおり

- 議 題：1 第2回貸切バスショットガン運用実験報告について
2 第2回タクシーショットガン運用実験報告について
3 ショットガンシステム構築について
4 その他

1 第2回貸切バスショットガン運用実験報告について

(資料に基づき事務局から説明)

(1) 各委員からの意見

- 乗客の待機場所などの情報をあらかじめバス関係者に伝えたいので、打合せを待機場所で行ってもらいたいなど、時間短縮の方法を考えなければならない。
- 団体バスの中には、全てのバスの乗車が終わるまで、出発しない場合があるので、その状況についても検討すべきである。
- 利用時間を短縮するためにバスガイドを先送りすることについては、各社に対応してもらうために議論を行う必要があり、バスガイドを降ろす場所の確保等も検討しなければならない。
- 駅前プールから第2プールまでの移動時間については、時期によって変化するので、第2プール利用者に情報提供する必要がある。
- バスプールの予約については、不公平にならないように、予約開始時期等の情報をバス協会等に早めに伝えなければならない。
- 様々なイレギュラーな事象による遅れ等に対しても対応できるようなルールが必要である。

(2) とりまとめ

- 各委員からの意見を踏まえ、バス業界とも調整し、バスショットガンシステムの構築、各プールのルール作りを行う。

2 第2回タクシーショットガン運用実験報告について

(資料に基づき事務局から説明)

(1) 各委員からの意見

- 運用方法がこの方法で固まれば、ショットガンを実施することが可能であると思われる。あとは、タクシードライバーの不公平感をなくし、事前周知を徹底することが重要である。
- ショットガン運用までに、タクシーの利用状況の調査をすれば、時期による変動を

予想することができ、ショットガンのオン・オフの時期については、ある程度ルール化できると思われる。

- ルールの徹底及びマニュアル化が必要であり、ルール違反者に対しては、ペナルティも検討していただきたい。
- 移動時間については、経路上の車両台数の影響もあるが、信号交差点での右折の回数が大きく影響するため、第1回実験のルートの方がスムーズに運用できると思われる。

(2) とりまとめ

- 各委員からの意見を踏まえ、タクシー業界とも調整し、タクシーショットンシステムの構築、各プールのルール作りを行う。

3 ショットガンシステム構築について

(資料に基づき事務局から説明)

(1) 各委員からの意見

- 直接入庫へ切り替える際の課題への対応としては、ショットガンオフの時間と直接入庫の時間にタイムラグを設けるというシステムの工夫による方法と、ドライバー間の合意によりルール化する方法が考えられる。
- タクシープールや乗り場だけでなく、アバンティ周辺も含めて、ルール化してもらいたい。
- 列車が遅れる等のイレギュラーな事象の想定が必要であり、過去の事例等踏まえながらシミュレーションを行い、対応策を検討しておく必要がある。
- 運用をベースにした運用マニュアルが必要であり、それを踏まえながら、システムを決定していく必要がある。

(2) とりまとめ

- 各委員からの意見を踏まえ、貸切バス、タクシーショットガンシステムの構築及びルール作りを行う。

4 その他

(1) 各委員からの意見

- PDCAサイクルが重要であり、状況の変化に対し、今後どういう組織で臨むのか検討していく必要がある。
- 4月15日からバスプールがアバンティ前に移設されるが、例年と同じように、大規模な利用も確定しており、これまでと同じようにバス乗降をしてもらうためには、一般車の乗降等で使用されている乗降場を使用する必要がある、タクシーや荷捌きの方のご協力をいただきたい。
- 工事中の仮設の期間が長いので、マネジメントをしっかりと行う必要がある。